

寝たきりゼロ実現へ

新年度から ライフ戦略 4方針で施策展開

弘前市は28日、効果的な健康増進と産業振興を目的とした「ひろさきライフ・イノベーション戦略」をまとめた。計画期間を2017年度からの5年間とし、ライフ関連の研究開発促進や中核企業の育成により、弘前ならではのビジネスモデル構築を目指す。研究開発実施件数などの目標指標も設定した。

(渋谷紘一)

弘前市

同戦略では市民の生活の質(QOL)向上

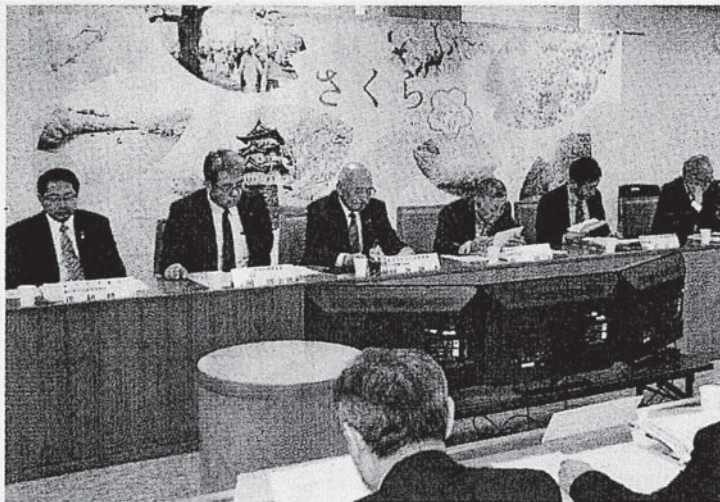
と新たな産業集積の形成により、健康寿命の延伸と若年層の雇用創出を図り、人口減少抑制と地域経済の維持・成長の実現を目指す。副題に「寝たきりゼロ」社会による健康都市ひろさきの実現」を掲げ、寝たきり抑止に向けた取り組みを進める過程で、結果的に人口減少が抑えられ、地域への投資が促される

基本方針には①「オール弘前」による健康増進②医療技術等の研究開発促進③弘前大学COI拠点との連携強化④民間事業者の参入促進の4項目を盛り込み、これらに沿った各種施策を展開する。このうち、研究開発では最先端の医療技術などに関する産業集積により競争力を磨くとともに、若手の人材育成を目指す。

アクションプランで確保を官民協力体制で推し進める。医療の導入促進を目的に財政支援を行うとした。特にロボットスーツHALの導入については、初期費用が高額と想定されるため、市が財政的支援を行い、北東北を範囲とした普及を図るための協議会も発足すると明記した。また、多様な健康医療産業が立地しやすい環境を整備するため、規制緩和や財源の

戦略期間中の目標値は、現状値(16年)ではいずれも1件のみの「地元企業の関連研究開発実施件数」や「地元企業と大手企業とのビジネスマッチング件数」が10件、4件だった。「新たな健康増進施策数」も10件。皆無だった「オープンデータ」によるプロジェクト件数「は5件とした。国の動向などを踏まえ、

ひろさきライフ・イノベーション戦略の最終案を精査する有識者ら



随時改訂する。

28日は市役所で同戦略策定の有識者会議が行われ、学識者ら6人が市側の示した最終案をチェック。委員らは「寝たきりゼロ」という分かりやすいコンセプトなどと好意的

に評価し、この内容でまとまった。山本昇副市長は「戦略は策定自体が目的ではなく、早く具体的な動きを加速したい。計画の進行管理もしっかりと行っていきたい」と強調した。